

ヨハネによる福音書7章37-39節 「生ける水」

1A 仮庵の祭り 37

1B 大いなる日

2B 立ち上がるイエス

2A 渴いている者 37

1B 神への渴き

2B イエスに来て、飲む福音

3A 生ける水の川 38

1B イエスへの信頼

2B 生ける水

3B 腹から流れ出る水

4A 御霊の約束

1B 栄光を受けたイエスから

2B 聖霊のバプテスマ

本文

ヨハネによる福音書7章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは 6 章まで来ましたが、今日の午後礼拝で 7 章全体を一節ずつ見ます。今朝は、37-39 節に注目します。「**37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」39 イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ下っていなかったのである。」**

1A 仮庵の祭り 37

ユダヤ人たちは、成年男子が都上りをして祭ることを命じられている、三大祭りがあります。過越の祭り、五旬節、そして仮庵の祭りです。ヨハネによる福音書は、イエス様がエルサレムにまで上って来て、ユダヤ人の祭りに参加される場面を中心に描いています。これまで、過越の祭りに集われていた姿はありましたが、ここ 7 章では、仮庵の祭りに集われているイエス様の姿があります。

1B 大いなる日

日本における神道系の祭りで、寒中水泳や禊(みそぎ)がありますね。水を使った祭りは、日本にも、世界にも、いろいろなところがありますが、イスラエルの神に対する祭りにもあります。仮庵の祭りで、祭司たちが水がめを持って行き、シロアムの池まで降りていきます。そこで水を汲んで、

行進をし、再び神殿にまで上がっていき、祭壇のところに水を流します。これを、仮庵の祭りの七日間、行います。けれども、「大いなる日」これは八日目ですが、それは行いません。その時に、イエスが、今、私たちが読んだ言葉を大声で叫ばれました。

イスラエルの三大祭りは、イスラエルが、主が彼らをエジプトから救い出し、いかにアブラハムに約束された土地に導き入れられたかを覚えるためのものです。過越の祭りは、エジプトから脱出したことを覚え、イスラエルの神は彼らを救い、奴隷状態から解放し、ご自分の民になったことを覚えるものです。五旬節、つまり 50 日後に祝われる祭りは、シナイ山のところまで主がイスラエルを導き、そこで神が律法を与えられたことを覚えるものです。

そして、仮庵の祭りは、荒野の旅を彼らは 40 年間、行わねばなりませんでした。その間、神が彼らを守ってくださったこと、そして確かに約束の地に導き入れてくださったことを覚えるものです。ですので、仮庵というのは、仮住まいのこと、なつめ椰子の葉や、木の大枝、柳の木の枝によって庵を造ります。そして、そこに八日間、住むのです。イスラエルの祭りはファミリー・タイム、家族団らんの時であり、子供に父親が教えるときでもあります。枝や葉の隙間から、夜空が見えて、「お父さん、星が見えるよ」と言ったら、お父さんは、「息子よ、我々の先祖も、荒野でこのようにして夜空の星を見たのだよ」と教えます。「お父さん、寒いね」と言ったら、「息子よ、先祖たちも、シナイの荒野で寒い思いをしたことだろう。」と答えます。

そして、その間、イスラエルの神はご自分の民に、渇きで死なせることはなさいませんでした。彼らが不平を鳴らした時に、主はモーセに岩を打てと命じられました。すると、岩から水が流れました。イスラエル人にとって、水は命です。私たちは水が豊富にあるので、それが実感できませんが、乾燥して、その土地の半分が沙漠であるイスラエルにとっては、水というのは自分の命そのものでした。特に、泉から湧き出る水、流れている水というのは、生きています。多くの場合、貯水槽で水をためていますが、水はおいしくありません。けれども、流れているのは生きています。

そして仮庵の祭りにおいて、大いなる日に、祭司たちがシロアムの池から水を運ばないのは、彼らが確かに約束の地に入り、荒野におけるような水の供給を、もはや神はする必要はなくなったことを意味しています。それでも、約束の地においても、今、申し上げたとおり、水が枯渇する時が多くありました。神は、裁かれる時にも水がないようにされました。しかし、主が来られたら水が流れます。エゼキエル 47 章には、驚くべき幻があります。神がご自分の宮を立て直され、なんと神殿の中から湧き水が流れ出て、それが川となり、西の地中海に流れ、それから東は死海に流れます。死海は、もはや死んだ海ではなく、魚が泳ぐ生きた海となります。そして、ゼカリヤ書 14 章には、そこで仮庵の祭りが行われ、世界から国々が仮庵の祭りを守るためにやってくると預言されているのです。

2B 立ち上がるイエス

その時に、イエス様は立ち上がられたのです。「イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。」とありますね。ユダヤ教のラビは、大抵、座って教えます。山上の説教においても、座って教えられたことが書かれていますね。ここで立ち上がったのは、教えるのではなく、宣言です。大きな呼びかけです。私たちも、自分たちの住んでいるところで、地方自治体からの案内放送が、町中に響き渡る時がありますね。平穏な時もそうですが、緊急の時、台風や洪水の時などは、特にそうです。それと同じように、イエス様はご自身の業、癒しなど奇跡をおこなわれて、十分に教えられましたが、だから、あとは呼びかけなのです。伝道集会とかで、「今、立ち上がって、来てください」と伝道者が呼びかけますね。それ、です。もうすでに、たくさん聞きました。そして、たくさん見ました。今は、呼びかけに応える時なのです。

2A 渴いている者 37

イエス様は、これまでの呼びかけと同様、「わたしにあって、仮庵の祭りが実現するのだ」ということです。6章では、天からのマナがイスラエルの民に与えられていたけれども、わたしがいのちのパンである、と言われました。律法はモーセによって与えられましたが、恵みとまことはイエス・キリストによって実現します。ユダヤ人が守っている律法や祭りは、キリストこそが本質なのです。

1B 神への渴き

イエス様は、「だれでも渴いているなら」と言われました。ヨハネ 3章 16節も、「信じる者は、だれひとり滅びることなく」とありますね。どんな人であっても、渴いているなら、ということです。では、「渴いているなら」とは、何でしょうか？ここで主が語られているのは、肉体的なこと、生理的現象での渴きでないことは確かです。霊における渴きです。

人は、霊と魂と肉の三つの部分でできています。「創世 2:7 神である主は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。」私たちは、この肉体だけで生きているわけではありません。もしこの肉体だけなのなら、どうして、私たちは誰かが死んだ時に、その人に語りかけようとするようなことをしてしまうのでしょうか？私は、自分の祖母を看取ろうとしたのですが、その直前に死んでしまいました。そのまま、伯父の家に運ばれていき、おばあちゃんの遺体に白装束が着せられていきます。はっきりと分かりました、「おばあちゃんは、この身体ではない」ということ。確かに、霊また魂があります。

そして厳密に言えば、魂あるいは精神と霊も異なります。ある精神科医の人の話を聞いたことがあります。そこには精神的疾患を持っているクリスチャンの患者さんも来ていたそうです。確かに精神的な病は持っているのですが、祈ること、神の言葉である聖書について話したり、そういった喜んでいる姿を見て、「この人たちは救われている」と思ったそうです。精神科医は人を救えないと彼は思ったそうですが、それを若手の同僚に話すと、その人はかなり否定したそうです。人は、

精神のみがあるのではない、というものです。さらに深い部分があります。それが霊です。そして霊こそが、その人の本質です。

そして、大事なのはそれぞれに「渇き」があることです。肉体に飢え渇きがあります。空腹に感じたり、喉の渇きがありますね。そして魂に渇きがあります。人に愛されたいという思い。安心したいという思い。自分が必要とされていると感じたいということもあるでしょう。そして霊においても、渇きがあるのです！これは肉体における渇きが満たされたとして、心に虚しさを感じる時に分かります。食欲において、グルメをしたとして虚しい。多くの人と性的関係を持ったところで虚しい。精神的にもそうでしょう。誰かといっしょにいて、サークルでいっしょにいても、虚しい。自分の目標がたっせされても、「もっと何かがあるはずだ」と思ってしまう。伝道者の書に、「3:11 神はまた、人の心に永遠を与えられた。」と言っています。「今の生きている世界よりも、もっと何かがあるはずだ！」と分かっているのです。「詩 42:1-2 鹿が谷川の流れを慕いあえぐように神よ私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは神を生ける神を求めて渇いています。いつになれば私は行って神の御前に出られるのでしょうか。」

私たちには、神にしか埋められない空洞があるというのは、数学者パスカルが言った言葉です。しかし人は肉体的なことで埋めようとする。精神的なことで埋めようとする。けれども、満たされたと思ったら、また渇きます。サマリアの女に対して、イエス様が言われた言葉の通りですね。彼女が、五人の男と結婚していましたが離婚して、今の男とは同棲しかしていませんでした。「4:13-14 この水を飲む人はみな、また渇きます。しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」イエス様はサマリアの女にも、イエスの与える水こそが、その人の渇きを癒すと言われたのです。なぜなら、イエスこそが神の独り子で、この方に霊のいのちがあるからです。

2B イエスに来て、飲む福音

そして、イエス様は言われました。「**わたしのもとに来て飲みなさい。**」なんと単純なことでしょうか。イエスという方のところに来て、この方から霊の渇きをいやしていただくのです。これが、福音、良き知らせの最も単純な形です。とても単純な一歩です。ところが、多くの人が実はイエスのところに来ていないことがあります。

イエス様は、ユダヤ人の宗教指導者たちに、こう話したことがあります。「ヨハ 5:39-40 **あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。**」聖書をたくさん調べているのに、その聖書はイエス様を証しているのに、イエス様のところに行かないのです。これは、大きな問題です。聖書を知識のためだけのものにしてしまって、イエス様とのつながりで考えていなかったということです。それはなぜか？ヨハネは明快に

説明しています。「3:19-20 そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来ない。」自分にある闇があって、イエス様のところに来ようとするものなら、光によって闇が照らされてしまうからです。単純だからこそ、この一歩を進んでいないということが、数多くあります。

3A 生ける水の川 38

1B イエスへの信頼

そして、「**わたしを信じる者は**」とありますね。何度となく、イエス様はご自身を信じるように、と書かれます。これは、「信頼してね」「任せてね」「明け渡しなさい」ということです。何か自分で努力することでも、一生懸命にすることでもありません。主にわが身を明け渡すことです。自分が、たとえ何も感じることも、理解することさえできなくとも、ただこの方がおられることを信じるのです。

2B 生ける水

「**聖書が言っているとおり**」とあります。これは、イザヤ書 44 章 3 節にある預言のことを指していると思われます。「44:3 わたしは潤いのない地に水を注ぎ、乾いたところに豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。」先にお話した、エゼキエル 47 章にある預言、それからゼカリヤ書 14 章にある、仮庵の祭り、それらがすべて水に溢れ、豊かになり、川の流れができるというものです。それが目に見えるで神の国で起こることでしょう。けれども、それだけでなくその川の流れと共に、霊が注がれることを教えています。そう、神の霊が注がれることが、川の流れのようになり、それが、今、わたしを信じる者には与えられるのだよ、ということなのです。

3B 腹から流れ出る水

「**その人の心の奥底から、**」と言われました。ここで言っている「心の奥底」は、直訳は「腹」です。聖書では、人の感じる場所は、腹とか腎臓とか、胸よりもずっと下の部分のほうで感じると考えます。「断腸の思い」という言葉が、中国から来ていますね。そういったところから、神の霊が流れ出るというのです。

イエス様は、サマリアの女にも使われたことばをここでも言われています。「**生ける水**」です。これは動く水です。貯水槽にあるような、貯められたものではなく、川となって流れる動くものです。同じように、いのちとは動いているものです。血は血だけあっても、死んでいます。脳に絶えず血が動いていることによって、酸素を運んでそれで生きることができます。

そして、「**流れ出るようになります。**」でありますが、これは「ほとばしり出る」というような意味合いがあります。先に、イザヤの預言で、「乾いたところに豊かな流れを注ぎ」とありましたね。沙漠

における、涸れた川に鉄砲水が流れる様を描いています。イスラエルは、南部はすべて沙漠です。その降水量は極めて少なく、年に一度、二度だけ雨が降ります。こういう時に、必ず鉄砲水になるのです。イスラエルで人が溺死してしまう事件が毎年、必ず何件かあります。それは、沙漠で起こるのです！なぜなら、涸れ川のところはハイキングする時に歩きやすいのですが、突然、鉄砲水がやってくるので、逃げ切れないからです。

どうでしょうか？ 渴いているなら、イエスさまのところに来ます。この方に信頼します。そうすれば、腹から、生きている水、いのちの水が鉄砲水のようにあふれ出るのです！

4A 御霊の約束

これを使徒ヨハネが注釈を入れています。「39 イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ下っていなかったのである。」

1B 栄光を受けたイエスから

これは、いつ、どこの話をしているのでしょうか？ 「イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ下っていなかったのである。」とありました。栄光を受けるとは、父なる神のもとに帰ることです。昇天することです。つまり、ここでの御霊が下るというのは、使徒 2 章における、弟子たちに対する聖霊の満たし、聖霊のバプテスマのことです。

2B 聖霊のバプテスマ

イエス様は既に、弟子たちに「20:22 息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。』」とあります。イエス様が天に昇られる前に、既に聖霊を受けています。イエスを信じている者には、聖霊がすでに内に住んでいます。ここで信じる者に約束されている聖霊のバプテスマとは、その後の御霊の満たしのことを言っています。御霊が自分からあふれ出てくる働きです。自分が御霊によってイエス様と関わりを持っているだけでなく、自分を通してイエス様が確かに生きていることを周りの人々に証しするのです。自分だけでなく、他の人々にイエス様が生きていることを知らせます。

ですから、私たちは聖霊を求める必要があるのです。うちで泉となって永遠の命に至る水となるだけでなく、沙漠の中の鉄砲水のように腹から溢れ出る働きです。それがすべてイエスを信じる人々に与えられます。